

たぐすい

TAKUSUI
No. 753

7

July.2019

発行 (一財)兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



高野山 漁民合同慰霊塔 (和歌山県高野山町)

各団体 総会

第44回 漁民物故者合同慰霊祭

《今月の海上安全標語》～ わかりやすい動作をとりましょう～

海難事故で一番多いのが衝突です。見張りの徹底はもちろんですが、船舶間に十分に余裕があるときに、相手船の動きを把握し、相手にわかりやすい適切な操船を行いましょう。

余裕もち 船舶間の 意思の疎通 では、今月も安全操業で!

ようこそ

「ずっと真っ直ぐに」

(ようこそとは航海用語で「宜しく候の意。主に船を直進させるときの号令として使われる。)

…次世代へ…

なぎさ信用漁業協同組合連合会 常務理事 本店営業部本部長 中出好彦



人事異動に伴い今年の1月より、なぎさ信漁連本店営業部でお世話になっていきます。中出と申します。よろしくお願いたします。

私は、信漁連でお世話になる前は、漁協(組合)の職員でした。組合では、信用・共済部に19年間

所属し、その期間のうち、7年程度は共済専任担当者として、共済専門で推進活動を行っていた時期もあります。その後、漁協信用事業譲渡のタイミングで、和歌山県信漁連に転籍し、その間、素晴らしい方々と出会い、いろんな人に助けられ、また支えていただきました。

私の趣味は、ゴルフとバイクでツーリングに出かけることです。バイクは、18歳で車の免許を取得して以降、乗っていなかったのですが、職場の方々の誘いで30年ぶりにリターンライダーとなり、各地のB級グルメを求めてツーリングに出かけていました。最近では乗る機会も少なくなりました。

現在、明石に単身赴任していますが、私の実家は兼業農家で、8年前に親父が病氣をしてから、後を引き継ぎ少少の稲作(米)を作っています。先日実家に帰ると、周りでは田植えの作業が始まり、田んぼには水が入っていました。幼いころは、この時期になると網を持ってメダカをよく取りに行っていたものです。

メダカは、健気な姿が愛らしく、昔から私たちにとって身近な生き物でしたが、いつの間にか絶滅が危惧されるほどに減ってしまいました。その背景には、水質汚染や河川改修、宅地造成など様々な原因があります。田んぼを取り巻く環境の変化もその一つで、生産性の高い農地に変える圃場整備に伴って、素掘りの用水路がコンクリートに変わりメダカには流れが速くなり理想的な産卵場所である田んぼに入れなくなっただのも原因の一つと考えられています。メダカは、とても小さく弱々しく見えますが、厳しい環境の中で必死に生きています。

そんなたくましいメダカを見てみると、私も、この厳しい時代をどのように乗り越えられるか、また若い世代にどのように繋いでいくか考えさせられます。ひとりの力では出来る限り限られていますので、みんなで力を合わせ、助け合いながら乗り越えていきたいと思っています。



CONTENTS

No.753 July. 2019

- 2 ようこそ
- 3 なぎさ信用漁業協同組合連合会通常総会
JFぎよさい兵庫通常総会
兵庫県JF共済推進本部通常総会
- 4 兵庫県漁協女性部連合会通常総会
播磨地区漁協女性部連合会通常総会・研修会
但馬地区漁協女性部連合会通常総会・研修会
- 5 一般社団法人 播磨漁友会通常総会
播磨職員協通常総会
漁船保険事務研修会
- 6 兵庫県漁民物故者合同供養祭
国際協同組合デー兵庫県記念大会
- 7 但馬地区漁青連 グループリーダー-夏期研修会
関西学院大学田和ゼミ(文学部)との消費流通検討交流会
- 8 海の事故ゼロキャンペーン
- 10 ガザミふやそう会 会員募集
大輪田塾 第15期生 募集
- 11 兵庫JCC通信
- 12 旬に想う
大輪田塾だより



表紙の言葉

「高野山 漁民合同慰霊塔」(和歌山県高野山町)

奥之院参道にあるJF兵庫漁連の漁民合同慰霊塔「漁友鎮魂之塔」です。

昨年の台風で巨木が倒れ、慰霊塔や石垣が倒壊する被害を受けましたが、無事修復されました。

合祀された尊霊の偉業を顕彰するとともに、不慮の事故を絶滅し、本県漁業が更に発展することを祈念します。

平成31年度

なぎさ信用漁業 協同組合連合会 通常総会開催

6月27日(木)神戸市内のホテルで「なぎさ信用漁連令和元年6月通常総会」が開催されました。

中川 照央経営管理委員会会長の挨拶の後、JF 仮屋の岡田 光司組合長を議長に選出して議事が進められ、第1号議案から第7号議案まで、全7議案がすべて滞りなく可決・決定されました。新役員体制として、この度選任された役員による経営監視委員会が開催され、中川



会長が再任、橘 智史副会長が新しく選任されました。

合併3年目となる平成31年度においては、「全体の見直しと必要な修正を行い、次の3ヶ年に向けて準備を行う期間」と位置づけ、新たな役員体制のもと、「愛される浜の金融機関」を目指していく旨榎本副会長が挨拶を述べて、総会は閉会しました。

JFぎよさい兵庫通常総会開催



6月27日(木)神戸市内のホテルで平成30年度通常総会が開催されました。

川越 一男組合長は挨拶で「漁業共済事業、地域共済事業とも前年を上回る実績であった。収支は事業部門、管理部門ともに黒字となり剰余金も計上できた。今後「ぎよさい」と「積立ぶらす」の一層の定着に努めていく」とされました。この後、平成30年度の事業報告をはじめ、令和元年度事業計画などが上程されました。

した。令和元年度事業計画は、ぎよさい普及推進全国運動(最終年度)を展開し、「ぎよさい」と「積立ぶらす」の一層の浸透、定着に取り組むものとし、①ぎよさい普及推進全国運動に呼応した取組②中央・地方一体的推進活動の展開③行政・系統各団体との連携④広報活動の活発な展開⑤漁業共済掛金助成等事業の活用⑥研修活動の充実強化と組織活性化⑦漁業者サービスの充実等⑧制度の充実等に対する取組とし、本年度加入目標金額を漁獲共済137億7,536万円、養殖共済5億8,496万円、特定養殖共済145億568万円、地域共済6億6,829万円、積立ぶらすの漁業者積立額を8億3,400万円としました。

令和元年度

兵庫県JF共済推進本部 通常総会開催

6月14日(金)神戸市内において兵庫県JF共済推進本部の令和元年度通常総会が開催されました。

開会に先立ち、戎本 裕明本部長が日頃の推進活動に触れ、「平成30年度は3か年計画の中間年度として、主幹共済であるチヨコーとくらしを漁協と連携しながら精力的に推進活動を行ってまいりました。昨年は7月より豪雨、8月から10月にかけて立て続けに台風に見舞われかつてない台風被害の年になりました。被害件数も台風では過去最大級となりました。被害に遭われたご契約者に対してできる限り早期に共済金をお支払いすることを目指し、緻密な被害調査をすることで、わずかながらお役に立つことができたと考えております。厳しい漁業情勢の中、1年間推進活動にご尽力賜りました組合役職員の皆様に深く感謝申し上げます。」と感謝の意を表しました。

引き続き、来賓として長島 浩水産課長、共水連本所 深瀬 茂哉常務、共栄火災神戸支店 田崎 孝二支店長が順次祝辞を述べた後、戎本本部長が議長となつて提出議案の審議に入りました。「第1号議案 平成30年度活動報告について」、「第2号議案 令和元年度活動計画について」、「第3号議案 任期満了に伴う運営委員の選任について」、「第4号議案 任期満了に伴う全国共水連兵庫県選出総代の選任について」の4議案が審議され、原案どおり全会一致で可決されました。

最後に、戎本本部長が新運営委員を代表し「漁業者の生命と財産をJF共済で守ることを念頭において、更なる普及推進のために新運営委員が一丸となつて努力いたします」と挨拶を述べて総会は閉会しました。



平成31年度兵庫県漁協

女性部連合会通常総会

6月26日(水)、神戸市水産会館にて、23会員(うち4委任状)51名と兵庫県農政環境部農林水産局水産課 望月松寿副課長、JF兵庫漁連 田沼 政男会長はじめ来賓12名の出席のもと、平成31年度兵庫県漁協女性部連合会通常総会が開催されました。

総会は、森 武美会長の挨拶、望月副課長、田沼会長はじめ来賓紹介に続いて、議事に入りました。平成30年度事業報告及び収支決算、平成31年度事業計画及び収支予算、平成31年度会費賦課額及び徴収方法、規約変更の件、役員任期満了に伴い新役員が承認され滞りなく終了しました。なお、新役員は次のとおりです。

- 会 長：森 武美 (JF福良・再任)
副会長：井上三枝 (JF神戸市・再任)
井上 千鶴 (JF岩見・再任)
三木 政枝 (JF但馬津居山)
理事：秋馬 芳巳 (JF神戸市)・

令和元年度播磨地区漁協女性部 連合会通常総会・研修会

播磨地区漁協女性部連合会は、6月12日(水)、兵庫県立農林水産技術総合センターにて、8会員(うち1委任状)38名と(一社)播磨漁友会 井上仁会長をはじめ来賓13名の出席のもと令和元年度通



常総会を開催しました。総会は、井上千鶴会長の挨拶、井上漁友会会長はじめ来賓紹介に続いて、議事に入りました。平成30年度事業報告、収支決算、令和元年度事業計画・収支予算、令和元年度会費賦課額及び徴収方法、役員任期満了に伴い新役員について承認され滞りなく終了しました。

会 長：井上 千鶴 (JF岩見・再任)
副会長：魚谷みゆき (JF明石浦)
四十物佳代美 (JF伊保)
理事：小松 幸枝 (JF林崎)・岸本 喜美 (JF東二見)
監 事：上谷さゆ美 (JF坊勢)・山田奈保美 (JF室津) (敬称略、順不同)

総会終了後、大阪大学人間科学研究科 未来共創センター 招へい教授 石蔵 文信氏を講師に迎え、「楽しく生きるためのパートナーシップ」共に依存しない生き方を目指して」と題して、依存せず自立した生き方をすることや、互いを思いやることの大切さについて学習し、女性部の皆さんは熱心に耳を傾けていました。

魚谷みゆき (JF明石浦)
松帆 悦子 (JF淡路島若屋・再任)
宮本あや子 (JF但馬柴山)
監 事：四十物佳代美 (JF伊保)・中元はるみ (JF沼島)
膳所 良子 (JF但馬香住) (敬称略、順不同)

総会の後、洲本農林水産振興事務所 高木 敏行氏を講師に迎え、「青年部がやるべきこと」島の魅力発信 将来に繋ぐ私たちの思い」と題してご講演いただきました。青年部の活動についてのご講演に対し、女性部の皆さんの関心はとても高く、熱心に受講されていました。



令和元年度但馬地区漁協女性部 連合会通常総会・研修会

令和元年6月20日(木) JF但馬柴山支所にて、但馬地区漁協女性部連合会通常総会が会員40名と但馬水産事務所 中岸明彦所長、JF但馬 村瀬 晴好組合長、JFなぎさ信漁連 黒田 俊文理事長はじめ来賓16名の出席のもと開催され、平成30年度事業報告、収支決算並びに令和元年度事業計画、収支予算、役員任期満了に伴い新役員について承認されました。なお、新役員は次のとおりです。

- 会 長：三木 政枝 (JF但馬津居山)
副会長：宮本あや子 (JF但馬柴山)・膳所 良子 (JF但馬香住)
理事：村瀬千枝美 (JF但馬柴山)・山中子エミ (JF但馬香住)・乙野 好江 (JF浜坂)
監 事：真野 光恵 (JF但馬津居山)・中村 由香 (JF浜坂) (敬称略、順不同)

総会終了後の研修会では、香美町と活隊より「とと活隊 魚食普及活動の取組について」と題した講演が行われ、参加した女性部の方々は、最後まで興味深く聴講されていました。



一般社団法人 播磨漁友会通常総会

6月25日(火)、姫路市内のホテルにおいて一般社団法人播磨漁友会(井上仁会長・JF岩見)の第44回通常総会が開催され、会員16名並びに行政機関、系統団体からの来賓の方々が出席されました。

開会あたり井上会長が挨拶し、兵庫県農政環境部農林水産局水産課長島浩課長、JF兵庫漁連田沼政男会長が来賓を代表し祝辞を述べました。



6月18日(火)、播磨漁友会館(姫路市)にて、播磨地区漁協職員協議会令和1年度通常総会が、代議員24名(委任状10名含む)出席のもと開催されました。

開会にあたり、澤浦博光会長(JF家島)が挨拶し、来賓を代表して行政からは、姫路農林水産振興事務所 水田章所長補佐、系統からは、(一社)播磨漁友会 井上仁会長、JF兵庫漁連 柴田昌彦部長がそれぞれ祝辞を述べられました。

議事に入り平成30年度事業報告及び収支決算並びに剰余金処分案、令和1年度事業計画及び収支予算、会費賦課額と徴収方法の3議案は原案通り承認されました。

最後に、令和1年度の親睦ボーリング大会・意見交換会・学習会の行事日程が報告され、参加が呼びかけられました。

(文：播磨地区漁協職員協議会)

令和1年度 播磨職員協通常総会



令和元年度

漁船保険事務研修会開催

日本漁船保険組合兵庫県内海支所は、令和元年度漁船保険事務研修会を7月9日(火)神戸市内のホテルで開催し、管内35JFの組合長、担当役員をはじめ、県市町担当係官、系統団体代表者等約140余名が参加しました。

初めに、井上仁支所運営委員長、三宅哲夫日本漁船保険組合会長による主催者挨拶、兵庫県水産課 望月 松寿副課長、JF兵庫漁連 田沼政男会長の来賓挨拶に続いて、賞状授与伝達式が行われ、無事故漁船所有者の部でJF林崎所属「住吉丸」への水産庁長官表彰をはじめ日本漁船保険組合会長表彰として部門毎の表彰が行われました。

引き続き、平成30年度の事業概況報告並びに令和元年度事業計画について事務局から説明がありました。

また、今回の研修会では、神戸地方気象台 港湾気象官 小野善史氏から

「漁師は天気が読める！〜自然災害の知識や予報の活用によるリスク管理」と題した講演があり、気象変化を理解するための知識や防災気象情報の適切な利活用について説明され、参加者は終始熱心に聴講されました。

最後に福田一義支所運営委員長が閉会の挨拶を行い、事務研修会は盛会の内に終了いたしました。

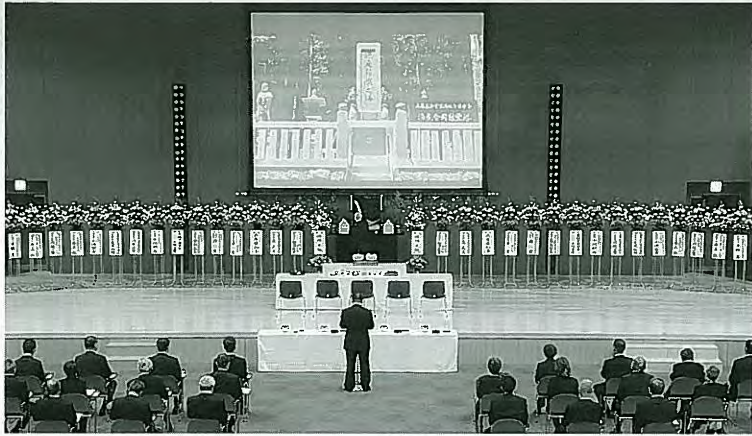


第44回

兵庫県漁民物故者合同供養祭開催

今年で44回目となる 兵庫県漁民物故者合同供養祭（主催：JF兵庫漁連）が、6月11日（火）和歌山県の高野山大学松下講堂並びに慰霊塔前において厳かに執り行われました。

会場には県内漁業関係者ら165名が参列し、開会にあたり遺族代表の岡



田武夫様（JF坊勢）と内海えりか様（JF育波浦）の手で、平成30年度中に物故された121柱の芳名簿が祭壇に奉納されました。主催者代表として挨拶に立ったJF兵庫漁連 田沼政男会長は「本県が全国有数の水産県として今日あるのは、ここに合祀されておられますご尊霊のご努力の賜物であり、在りし日の輝かしき業績に対し深く敬意を表します。残る我々は力を合わせて豊かな漁場を取り戻し、次世代に引き継ぐことを誓います。」と話され、続いて来賓を代表して兵庫県知事（県農林水産局石井龍太郎局長 代読）、JF全漁連会長（JF全漁連 木山真一 漁政部次長 代読）から追悼の言葉をいただきました。その後、読経の流れるなか、主催者、ご遺族、来賓、一般参列者の順に焼香が行われ兵庫県漁協女性部連合会 森武美会長から全参列者に御礼が述べられ、供養祭は厳粛のうちに滞りなく終了しました。

これまでに合祀されたご尊霊は今回の121柱を含めて12614柱となりました。心からご冥福をお祈りいたします。（文：JF兵庫漁連指導部）

第97回 国際協同組合デー

兵庫県記念大会 開催される



も過言ではない。この大きな力を礎にして、より豊かな人間関係を築きあげるように努力していきましょう」とした兵庫JCC宣言がありました。

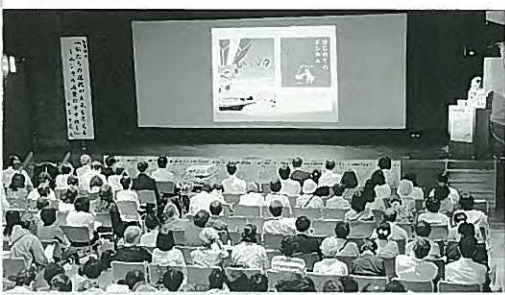
7月第1土曜日の国際協同組合デーにあわせて毎年行われている「国際協同組合デー兵庫県記念大会」は今年で97回目を数えます。7月5日（金）、兵庫JCC（兵庫県協同組合連絡協議会）主催による同大会が神戸市内で開催され、関係者約340人が集まるなか、協同組合運動の前進を誓いました。

第1部の記念式典では、JA兵庫中央会 石田正会長による主催者挨拶のほか、生活協同組合コープ自然派兵庫 正橋裕美子理事長から「県下の農協、生協、漁協、森林組合に集う仲間には200万人を超えている。兵庫の協同組合運動の進展が、日本の協同組合運動をさらに大きく進展させるといって

第2部の記念講演では「私たちの選択が未来を変える」エシカル消費のすすめ」と題し、末吉里花氏（一般社団法人エシカル協会 代表理事）が講演を行いました。TBS系『世界ふしぎ発見！』のミステリーハンターとして世界各地を旅した経験から、ひと握りの利益や権力のために、弱者や自然が犠牲になっている世界の現実に悲しみ、毎日やっているとことから貢献したいとの思いから法人を立ち上げたことや、世界で起こっている様々な事例を話されました。人間が持つ良心から発生した社会的な規範こそが「エシカル」の意味であると紹介され、「今使

用しているものにある様々な背景を思い、ものの一生涯に責任をもち、大切に長く使い続けてほしい、人間は知れば必ず気に掛ける生き物である。」と訴え、エシカル消費を勧める協同組合の活動に期待を寄せられました。

◀講演の様子



但馬地区漁青連 グループリーダー夏期研修会を開催

但馬地区漁協青壮年部連合会（伊藤清彦会長・JF但馬）は、新温泉町のホテルで「令和元年度但馬地区漁青連グループリーダー夏期研修会」を開催し、行政などの関係者も合わせて約40名が参加しました。

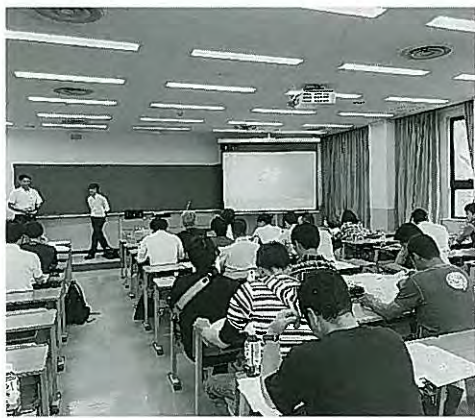
伊藤会長の挨拶とJF但馬村瀬晴好組合長の来賓挨拶の後、JF但馬竹野青壮年部永田兼彦さんが平成30年度に行われた技術視察研修報告として、由良町漁協・南あわじ漁協を訪れ、JF由良町のアカウニ養殖やJF南あわじのワカメ種苗人工培養・ワカメ加工場の取り組み等を視察した内容の発表を行いました。

その後の研修は2課題行われ、「調査船『たじま』による駆け廻し漁具動態の計測とシミュレーション」駆け廻し漁具の省力化・最適化を目指して」と題した研修では、兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター 大谷徹也主席研究員と西日本ニチモウ株式会社 北岡宏氏・横田 怜雅氏が但馬の主幹漁業である沖合底曳網漁の駆け廻し網漁具における省人・省力化に向けた操業試験や漁具動態の結果等が紹介されました。



次に「これからの漁業・漁村をつくる」として国立研究開発法人水産研究・教育機構 中央水産研究所 経営経済研究センター 主幹研究員 三木 奈都子氏より講演がありました。地域漁業や漁村コミュニティの実態等について詳しい説明があり、漁村や地域の維持のためには世代の特徴を活かす・女性の声の取り入れ、多様な地域それぞれを考え創ることが必要だと説明しました。

漁具改良やこれからの漁村を創る発想と連携についての講義に、参加者は熱心に聞き入っていました。



関西学院大学田和ゼミ(文学部)との消費流通検討交流会を開催 のり養殖について学習

摂津播磨地区漁業協同組合青壮年部連合会（大西正起会長・JF伊保）は、関西学院大学文学部 田和 正孝教授のゼミ生との交流を平成25年から続けており、今年も「消費流通検討交流会」と題して6月26日（水）、関西学院大学西宮上ノ原キャンパスにて開催しました。

今年度は、兵庫県の主幹漁業のひとつであるのり養殖について学習してもらうこととなり、JF兵庫漁連のり海藻部 藤原 紘希主任より、カキ殻系状態培養から陸上採苗、育苗から冷凍入庫から本張り・摘採といった養殖の流れと、加工からのり共販を経て消費者の元へ届く販売の流れが説明されました。のり加工の説明時には、のり生産者の青壮年部員が、のり生産に係る水道代や



県産水産物を食べながら意見交換

電気代等の経費がかかる事などの苦労話を説明しました。また、植物であるのりが育つために必要なリンや窒素量の変化とのり色落ちとの関係についての海の環境変化についての説明も行いました。

その後、ゼミ生と青壮年部員は関学生協食堂へ移動し、生しらす・ポイルシラス・焼きアナゴ・カキのジェノベーゼ等を堪能しつつ、漁業や漁場環境について意見交換を行いました。また、この活動を通じて卒業論文のテーマに漁業を選ぶゼミ生が現れるなど、漁業への関心を深めています。

漁業者自らが、現場の生の声を学生たちに伝える素晴らしい活動はこれからも続きます。



海上保安庁
JAPAN COAST GUARD

海の ゼロ事故 キャンペーン

2019 7/16▶31
海難⁰への願い

重点
事項

1 小型船舶の海難防止

重点
事項

2 見張りの徹底及び船舶間
コミュニケーションの促進

重点
事項

3 ライフジャケットの常時
着用等自己救命策の確保

■主催/ (公社)日本海難防止協会 (公財)海上保安協会 海上保安庁
■後援/ 総務省 スポーツ庁 水産庁 国土交通省 海難審判所 気象庁 運輸安全委員会 (公財)日本海事センター

2019 ミス日本「海の日」 高橋 梨子

海の情報は
ここでGET!

海の安全情報



パソコンやスマートフォン、携帯電話から、随所にアクセスできます。

海の安全情報 で 検索

海の事故ゼロキャンペーン

ZERO

2019
7/16→31
海上保安庁



重点事項 1

小型船舶の海難防止

出航する前にはしっかり確認、航海予定の周知を!!

プレジャーボートの海難で一番多いのがエンジントラブルです。下架後や出航する前には

- 燃料 ●エンジンオイル ●バッテリー ●冷却水 など

の検査を確実にし、安全運航を心がけましょう。また、家族やマリーナ等に航海予定を伝えておくなど、万が一に備えましょう。

重点事項 2

見張りの徹底及び船舶間コミュニケーションの促進

海難で一番多いのが衝突であり、原因は「見張り不十分」や「不適切な操船」が多数を占めています。

1 常時適切な見張りの徹底

「居眠り運航」や自動操舵任せで見張りをおろそかにせず、常時適切な見張りを行いましょう。

2 船舶間コミュニケーションの促進

十分に余裕のある時期に船舶間コミュニケーションを図り、相手船の動きを把握し、適切な操船を行いましょう。

- 早めに相手船にわかりやすい動作をとる
- 国際VHFや汽笛信号などを活用する
- AIS情報の活用と正しい情報の入力

なんといつでも
見張りが重要です!!

重点事項 3

ライフジャケットの常時着用等自己救命策の確保

万が一、海に転落した場合、①海上に浮く②速やかに救助要請という2点が必要不可欠です。

- 1 ライフジャケットの常時着用
- 2 適切な連絡手段の確保
- 3 海の緊急通報

海での「事件・事故」は
118番

小型船舶の船長が遵守しなければならない事項

モーターボートや水上オートバイなどのプレジャーボート、その他の小型船舶を安全に利用していただくため、小型船舶操縦者(船長)に対し、法令で遵守事項を定めています。

- 酒酔い等操縦の禁止
- 危険操縦の禁止
- 免許者の自己操縦
- ライフジャケットの着用
- 見張りの実施
- 発航前の検査
- 事故時の人命救助

平成30年2月1日以降、小型船舶の船室外の甲板上では、原則、すべての乗船者にライフジャケットを着用させることが、船長の義務となりました!

ガザミふやそう会 会員募集!!

「ガザミふやそう会」(大西 正起会長)は、県内漁業者、JF、系統団体のほか、一般市民や他県の水産関係者からの会費によって、抱卵ガザミを買い上げ、自然の力でガザミ資源を増強しようという取組みを、昭和61年から継続して行っています。

今年も同会の会員募集を行っております!
全国でも行われる“兵庫発”の取組みに是非ご賛同下さい!!

同会は抱卵ガザミのほか、期間・時期を問わず、①甲幅長12センチ以下のガザミ、
②脱皮直後の柔らか甲羅ガザミの再放流も行っています。

※抱卵ガザミの保護期間は毎年5月1日～9月30日までで、対象海域は大阪湾・播磨灘としています。

～会費・入会に関して～

- ・会費は1,000円/年です。
- ・会員の証として、オリジナルQ U Oカード(500円分)をお渡しします。
- ・取組みの内容など詳しくはJF兵庫漁連ホームページをご覧ください。



【事務局】

〒675-0163 加古郡播磨町古宮字堀坪1-4 JF兵庫漁連のり流通センター内
ガザミふやそう会事務局(JF兵庫のり海藻部資材内)
TEL: 078-942-9272 FAX: 078-942-9340

大輪田塾 第15期生 募集しています。

平成17年に開講された「大輪田塾」は、めまぐるしく変化する社会・経済情勢に対応し、将来にはJF組織を支えていける人材、つまり「浜のリーダー」育成を目的に始まったもので、多くの修了生が、JF組合長をはじめ役員などを務め、地域のリーダーとして活躍されています。

講義は、県・系統団体をはじめ多彩な講師陣による月1～2回の座学を中心に、外部研修や事務局が適当と認めた会議等も聴講できるといった幅広い知識の習得が可能なカリキュラムを組んでいます。

大輪田塾では、現在、今秋入塾される第15期生を募集しています。
皆様のご応募をお待ちしております。

◎応募資格

- ①原則として、漁業歴10年以上かつ45歳未満
 - ②原則として、JF職員歴10年以上かつ45歳未満
- のいずれかに該当する者で、所属する組織代表者の推薦を受けた者

◎在籍年限

原則2年(最長3年)
募集は8月末まで。その後、面接を行い、運営委員会の選考を経て、10月(予定)に入塾式を行います。(詳しい募集要領は各JF・団体宛に通知させていただきます。)

問合せ先(事務局) (一財)兵庫県水産振興基金

〒673-0883 明石市中崎1丁目2-3 TEL 078-919-1331

JAあかしの子会社 地域農業の担い手に

JAあかしの子会社である㈱クローバーファーム JAあかしは、平成29年10月に設立されました。農業者の高齢化や後継者不足といった先行きに「不安」を感じる状況の中で、同社では地域との「農」を通じた関わりを重視しながら、地域農業の担い手となる農業法人を目指しています。

JAの子会社である強みを生かして、ビニールハウス2棟を設置し、多くの種類の野菜を栽培しています。生産した野菜はJA直売所4店舗へ出荷する他、4カ所の支店でも販売し、JAと連携した販売拡大に取り組んでいます。農産物には「クローバーマーク」のシールを付けて販売しており、同社が生産した農産物だと一目で分かるようにすることで、認知度が上がるよう取り組んでいます。

また、農業体験イベントを通じて、次世代に向けた食農教育も行っています。主に親子連れを対象に、田植え、野菜の定植・収穫等の体験を実施しており、昨年度は約1000人の参加がありました。今年の6月には、サツマイモの植え付け体験を行い、地域の子供たちと触れ合いながら、農業に興味を持ってもらうきっかけを提供しています。

今後は、さらなる安全安心な農産物を提供するため、有機JASとJ-GAPの取得を目指し、地域の農業を守るための活動を続けます。



㈱クローバーファーム JAあかしで育成したオクラの苗を畑に定植

<http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

すべての議案審議が滞りなく終了 『第69回 兵庫県生協連 通常総会 開催』 〈基本テーマ〉地域コミュニティ・ネットワーク のさらなる拡大と充実

～協同が息づく兵庫のまちづくり～

6月24日(月) 兵庫県民会館で兵庫県生協連第69回通常総会を開催しました。

代議員総数36名中、36名が出席(実出席28名、書面議決8名)2018年度活動報告、2019年度活動計画など5つの議案について審議し、全議案が可決されました。

初めに木田克也 会長理事が「新しい時代が願う社会の実現のためには、協同組合の間はもちろん、行政やNPO、地域の諸団体との連携・協働をより一層進め、まさに『協同の力』で様々な『不安』を『安心』に、『困難』を『希望』に変えていこうではありませんか」と挨拶しました。続いて、来賓を代表して兵庫県女性生活部長 松森 章子氏、神戸市市民参画推進局副局長 黒田 徹氏、兵庫県農業協同組合中央会専務理事 浜田 充氏、日本生活協同組合連合会 関西地連 事務局長 北村 洋氏から、それぞれ大会の盛会と今後の発展を祈念したご祝辞をいただきました。

総会では、生活クラブ生協 角田 学代議員が議長に選任され、議事を進行。第1号議案、第2号議案の審議を行い、続いて第3号議案、第4号議案、第5号議案についても提案と審議が行われ、全ての議案が可決・承認されました。また役員選任と第1回理事会の結果、新しく兵協連 専務理事に松岡 久雄氏(コープこうべ)、兵協連 理事に頼川 久美氏(コープこうべ 理事)、兵協連 理事に菅原 隆喜氏(神戸市民生協 専務理事)が就任しました。



兵庫県生活協同組合連合会 木田 克也会長理事

<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>



旬に想う

写真と文
遊 方子



旅するウナギ(鰻)

◆旅と旅行は若干ニュアンスが違う。『広辞苑』では、旅は「住む土地を離れて一時他の土地に行く」とし「古くは必ずしも遠い土地に行くことに限らず、住居を離れる全てをいっただ」とあり、旅行は「徒歩または交通機関によって主に観光、慰安などの目的で他の土地に行く」とある。魚は目的を意識するほどの知能は無く、移動することがすなわち旅で、サケ・アユ・スズキ・ウナギなどが旅する。彼らの移動は基本的には往復であるが、途中で天敵に食べられたり戻って来れないことも多い。ウナギの生態は永く判らず、古代のアリストテレスは「ウナギは大地のはらわたから自然発生する」と記し、『山芋変じてウナギになる』との言い伝えもある。明治の新聞紙上に「半山芋、半ウナギが見つかった」というヨタ記事が載ったのも、生態が不明だった証拠といえるだろう。

◆生態が知られるのは、一九〇四年デンマークのヨハネス・シユミット博士が大西洋フェロー諸島沖で、ウナギのレプトセファルス(柳の葉状の仔魚)を採取した事に始まる。ウナギの卵は一日半で孵化しレプトセファルスに変態、さらに柳の葉状の仔魚へと変態して海流に乗る。半年後、稚魚シラスウナギとなり河口域に到達、海水に暮らす旅は一年程である。淡水域で体が黒くなりクロコと呼ぶ。成長期に背がオリブグリーンに、腹は白味がかった黄色になって「黄ウナギ」と呼ばれる。淡水で雄は数年、雌は約十年かけて成長して産卵できる状態の「銀ウナギ」に変わり、又旅に出て産卵場を目指す。ウナギが匂いを感じる能力は大並みの嗅覚だそうだが、長旅の末に潮目の塩分フロントに到達し匂いで故郷に戻ったと感じる。夏の新月の夜、一斉に産卵して受精させる。

◆二〇〇九年の夏、西マリアナ海嶺のスガル海山域でニホンウナギの卵が採取され、産卵場の特定に漕ぎつく。東大海洋研究所(当時)の世界的な快挙だった。直感と仮説を巧みに組み合わせ、研究グループをリードした塚本教授の努力には脱帽する。「麦と兵隊」で知られる火野葦平は、小説『赤道祭』でウナギの謎に憑かれた青年を書いたが、赤道近くでレプトセファルスを求めて調査する話である。当時は未だ産卵場所が不明だったから、著者の想像力の大胆さに驚かされる。産卵の特定場所が判ったから、ウナギの詳細な生態が解明されるのも時間の問題だろう。次は幼生が食べる餌さえ判明すれば、人工増殖が可能になる。世界的にシラスウナギが欠乏してウナギの値段が高くなり、庶民の口から遠のいているため、養殖ウナギよくなれと願いたい。土用の丑は鰻の厄日。江戸の昔から、庶民に愛された蒲焼きの様子が浮世絵版画になり残されている。

大輪田塾だより

「全国の海水魚養殖について」 「漁港整備について」

6月の大輪田塾は18日(火)に2講義開講されました。

「全国の海水魚養殖について」と題した講義では、一般社団法人全国海水魚養殖協会専務理事 中平 博史氏より、全国の養殖海水魚の分布や養殖技術、魚のエネルギー要求量を計算した適正な給餌方法や魚病予防、流通経路や加工など養殖魚について幅広く説明されました。

続いて、「漁港整備について」では、兵庫県農政環境部農林水産局漁港課 主幹 鶴池 泰一氏より、漁港の定義とその役割について、漁港と港湾の違いについて、漁港に関連する法規やその利用について学ぶとともに、新たな漁港漁場整備長期計画や県内の漁港整備状況や津波対策について説明を受けました。

天然魚の漁獲量が減少する中、安定供給できる養殖魚が重要性や、普段当たり前のように使っている漁港について考えるきっかけとなる有意義な講義となりました。



鶴池氏の講義の様子



中平氏の講義の様子